



ホロカトマム山林  
Horoka Tomamu Montane Forest



# ホロカトマムの森に棲む コウモリの調査 2012

Horoka Tomamu Forest Bat Survey 2012

日程: 2012年8月4日-15日

監督: デイビッド・ヒル教授 Prof. David Hill (京都大学霊長類研究所)

場所: ホロカトマム山林 (丸山)



コウモリは自然界に欠かせない生き物です。虫を食べ、その数をコントロールし、植物の花粉を運び、受粉の役割を果たす授粉媒介動物です。また果物の種を分散させる役割があるということも分かっています。コウモリには実に色々な種があり、世界中で1200種にもものぼります。これは哺乳類全体の5分の1がコウモリの種として数えられることになりません。

近年、コウモリの多くの種が絶滅の危機にあり、その数は減少してきています。

コウモリはすばしっこく夜行性のため、他の動物に比較して情報の収集が困難です。このためコウモリの観察保護は遅れています。広く知られていませんが、森林は生物多様性に富んでいるためにコウモリにとって他の環境よりもより重要な住処なのです。

## ホロカトマム山林における特殊なコウモリの調査

ホロカトマム山林において、コウモリ探知機を使用し、エコーロケーション (反響定位) とソーシャルコール (コウモリ同士の呼び合う声) の音声による調査を行います。また、特殊なハーブ網を使用し、コウモリのキャッチアンドリリースにて種の同定をし、音声と実物の整合性を確かめます。(コウモリをおびき寄せるための、音によるおとり、オートバットの操作をする予定です。この方法は今回調査に来るデイビッド・ヒル教授らにより、英国 サセックス大学にて開発されたものです。)

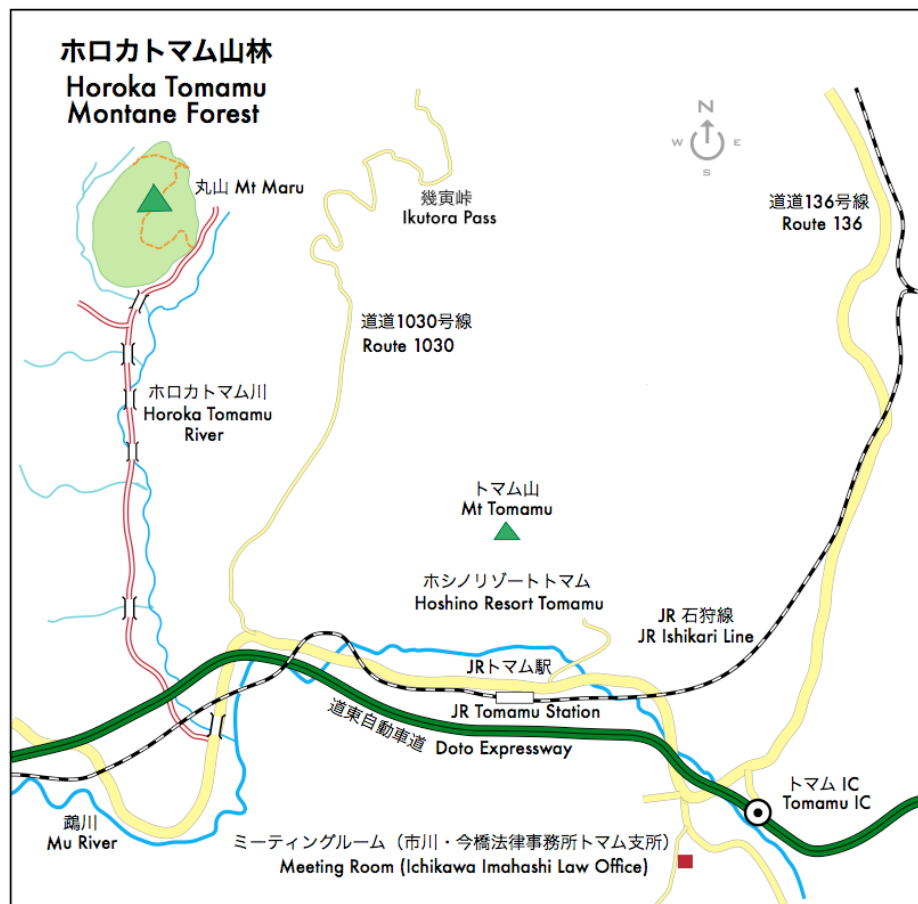
調査の初日、8月4日 (土) 午後に講義を予定しています。どなたでもご自由にご参加ください。

詳細プログラムは裏面をご覧ください。特に現地調査にご興味があり1日でも2日でも参加したいという方は初日に調査監督 (デイビッド・ヒル教授) による16.40分からの参加者への概要説明にお越し下さい。

現地調査は8月5日から15日までの晩、日没1時間前 (例えば18.20分頃) から夜半0時までの予定です (天候によります)。

参考図書: コウモリ識別ハンドブック (改訂版) 単行本文一総合出版 2011

ホロカトマム山林ウェブにも情報をのせています。 <http://www.horoka.org/species3.html>



## プログラム

2012年8月4日 (土) 講義

14.00: 「ホロカトマム山林のご紹介」 圓尾ホリッジ圭美

「北海道における野生生物の観測」 平川浩文 (森林総合研究所  
北海道支所)

15.00: 「森林におけるコウモリ調査」 デイビット・ヒル

(京都大学霊長類研究所 教授)

16.00: 「冬眠するコウモリ? 雪中で発見されるコテングコウモリ」 平川浩文

16.40: デイビット・ヒル教授によるホロカトマム山林コウモリ調査参加者への概要説明と、音声コウモリ  
おとり (オートバット: 英国サセックス大学コウモリ研究班による開発) のデモンストレーション

8月5日 (日) ホロカトマム山林におけるコウモリ調査の開始 18.15頃 (日没18.50頃)

8月6日 (月)~8月15日 (水) 連日ホロカトマム山林にてコウモリ調査 日没1時間前から夜0時までの予定  
(天候による)

■ 講義の開催場所

市川・今橋法律事務所トマム支所

〒079-2200 勇払郡占冠村トマム931番地29

電話 0167 38 2220

(上記地図 道東自動車道トマムIC近く)